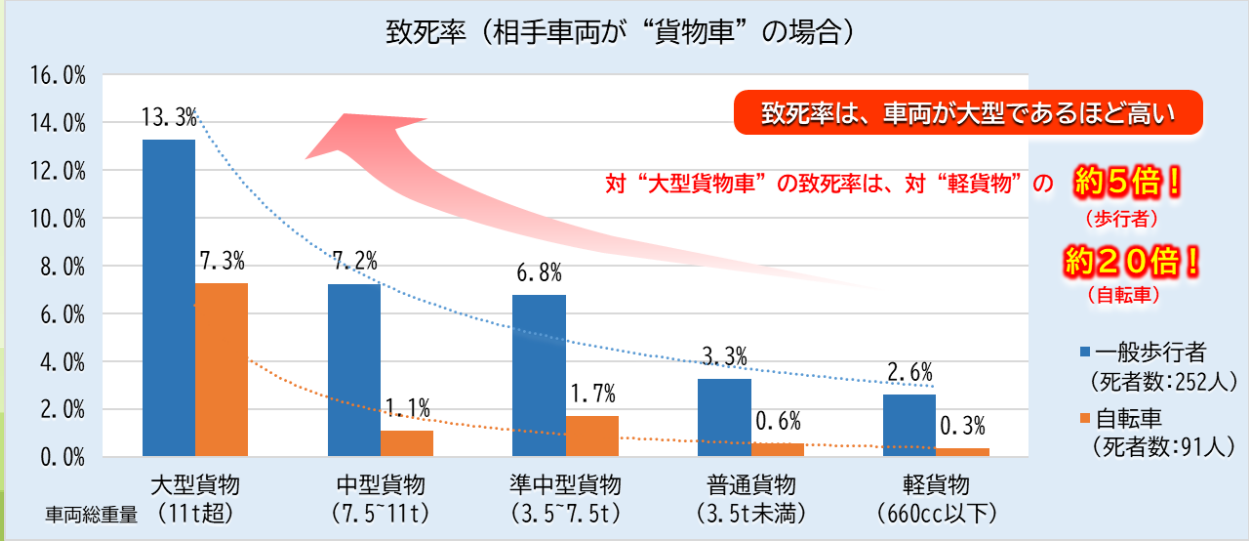


ご存じですか？ **歩行者・自転車の**

「致死率」と“相手車両の大きさ”の関係

2008年～2022年までの15年間のデータに基づく致死率は、相手車両の車両総重量が大きいほど高く、大型貨物車×歩行者の場合13.3%に上ります。

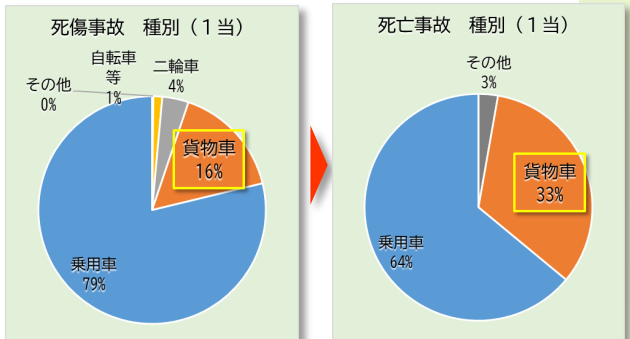
※ここで言う「致死率」とは、死者数を死傷者数（死者数+重傷者数+軽傷者数）で除した値をいう。



(出典) 致死率：2008年～2022年の事故データより算出 (※物理解析等による理論値ではありません。)

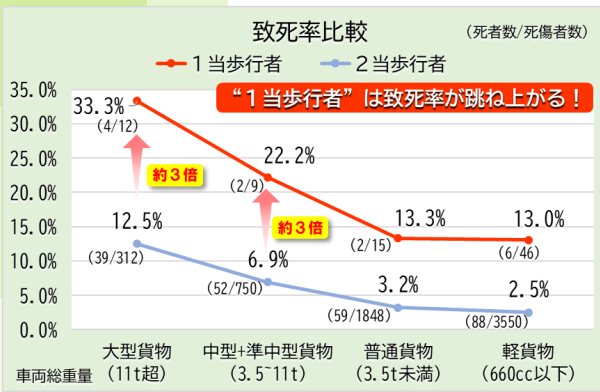
※ 乗用車は安全装備等の装着が進む一方、装着率が当事者区分により大きく異なり、車両重量以外の要素によるところが大きいと算出から除外した。

交通事故における1当の種別割合は、乗用車が79%、貨物車が16%ですが、死亡事故になると貨物車の割合が全体の33%に倍増していることがわかります。



(出典) 死傷事故種別割合：2008年～2022年の事故データより算出

さらに、同じ歩行者でも過失割合の高い1当歩行者の致死率は、2当歩行者に比べ致死率が跳ね上がり、対大型貨物車では約3倍の33.3%と3人に1人が亡くなっています。



(出典) 致死率：2008年～2022年の事故データより算出

※ 準中型貨物はH29から設けられた区分のため、サンプル数が少ないことから、中型貨物に合算し算出した。